Ⅴ．発掘調査技術等研修会の記録

平成19年度　発掘調査技術等研修会　開催報告

1.目的

炭素14年代測定法に基づく最新の弥生時代暦年代と土器編年等を検討し、東海地域を代表する朝日遺跡の評価と県内の弥生文化について研修する。

2.タイトル　　「弥生時代を考える　朝日遺跡の評価をめぐって」

3.主催　　愛知県教育委員会・(財)愛知県教育・スポーツ振興財団
主管　　愛知県埋蔵文化財センター

4.日時　　平成20年2月15日(金)

5.会場　　愛知県埋蔵文化財調査センター　２階研修室　(弥富市前ケ須町野方802-24)

6.内容

1　朝日遺跡(愛知県清須市ほか)を巡る
諸問題について

1)「朝日遺跡の主要遺構配置について」
講師　愛知県埋蔵文化財センター
課長補佐　赤塚次郎
2)「弥生時代の土器編年について」
講師　愛知県埋蔵文化財センター
主任　永井宏幸
講師　愛知県埋蔵文化財センター
主任　早野浩二
3)「朝日遺跡を特徴づける資料について」
講師　愛知県埋蔵文化財センター
主任　樋上　昇
講師　愛知県埋蔵文化財センター
主任　川添和暁
4)「名古屋市域の調査成果について」
講師　見晴台考古資料館
学芸員　村木　誠
5)「弥生時代の暦年代について」
講師　愛知県埋蔵文化財センター
主任　永井宏幸





研修会会場

2　討議

「弥生時代の暦年代と弥生文化について」

パネラー

橿原考古学研究所

調査部長　寺澤　薫

奈良国立文化財研究所

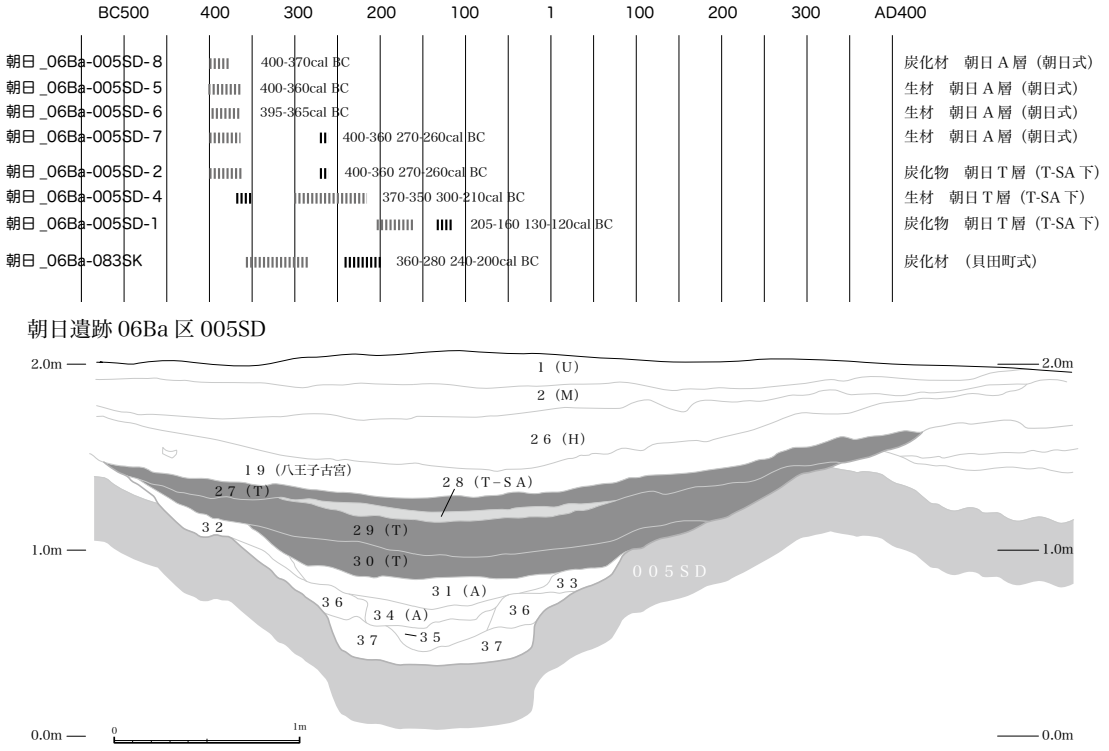
考古第三室長　深澤芳樹

愛知県埋蔵文化財センター

主査　石黒立人

朝日式期の暦年代について

討議の前提として提示された放射性炭素14による年代値において、中期前葉の朝日式期のAMS炭素14年代に基づく較正年代については、B.C.400―B.C350に限定されるものが複数存在する（下図参照）点が確認された。これらの結果からはおおむね前4世紀前半期の中で弥生中期がはじまっている点を想定することができるようである。また続く貝田町式期については、B.C.300―B.C.200を中心とした結果が導きだせるようであるが、今後の資料の増加が必要である点など、活発な議論が行われた。



朝日遺跡005SD（朝日式期）放射性炭素年代法による測定値